

まちの特徴・個性、UJI・定住希望者へのメッセージ

1. 村の概要

本村は、北海道東部・釧路管内のほぼ中央に位置し、東西23km、南北42km、総面積571.84平方kmを有し、東部は標茶町、南部に釧路湿原国立公園を挟んで道東の中核都市である釧路市や釧路町に接しており、また、北西部は釧路市阿寒町に面した人口約2,600人の純酪農村です。

村の地勢は、阿寒カルデラ外輪山の丘陵地を源として貫流する久著呂川や雪裡川、幌呂川の流域に沿って広がる久著呂、雪裡、幌呂の3原野をもって構成され、流域はいずれも農耕適地であり、大規模な草場が広がっています。

産業は、冷涼な気象条件や火山灰地、泥炭地などに阻害されながら乳牛を主体とした酪農専業形態がほとんどであり、多頭数飼育による近代化経営が進められ、環境と調和した農業の推進を図りながら、快適で住みよい農村環境の実現と足腰の強い酪農経営を目指しています。

また、広大な釧路湿原国立公園や特別天然記念物タンチョウを有する自然資源に恵まれ、自然観察型の観光や自然と共生した体験観光など、毎年多くの観光客が来村しています。

2. 村の地域資源

北海道の地名は「アイヌ語」を語源とすることが多いのですが、鶴居村の語源は国の特別天然記念物タンチョウ(鶴)であり、毎年行われるタンチョウ生息状況一斉調査では、現在1,000羽以上のタンチョウが確認されていますが、その半数近くが鶴居村で確認されています。

これは日本有数の「釧路湿原」が「タンチョウ」を育み、また、長きにわたり厳冬期には地域を挙げて給餌活動を行うなど、その保護活動に取り組んできた成果であるといえます。

そして、本村は2008年(平成20年)にNPO法人「日本で最も美しい村」連合に加盟し、美しい村づくりを進めていますが、忘れてはならない美しい景観は「酪農景観」です。

1937年(昭和12年)に旧舌辛村から分村した本村の産業は、分村当初は畑作や馬産などが中心でしたが、度重なる冷害や終戦による馬の需要の落ち込みにより、苦難の時代を迎えました。しかし、先人たちの絶え間ない努力によりその多くが克服され、1960年代後半からは冷涼な気候に適した「酪農」への産業転換に成功、現在では北海道でも有数の酪農郷として飛躍を続けています。

雄大な牧草畑でのどかに草を食む乳牛の姿は、多くの人たちの心を和ませ、「酪農郷つるい」の風物詩となっています。

また、最近では「釧路湿原」や「タンチョウ」、「酪農景観」に加え、新たな村の顔「手作りナチュラルチーズ」が誕生し、各地で鶴居村の名を広める活躍をしています。

鶴居村の大自然が育んだ乳牛から搾った生乳は、これまで乳質日本一に輝いた実績を持っていましたが、村では2004年(平成16年)2月から、この生乳を使った本格的なチーズ作りに取り組み、2007年(平成19年)11月に行われた第6回オールジャパンナチュラルチーズコンテストで、初出品ながらコンテスト最高賞となる「農林水産大臣賞」を受賞。その名も「鶴居」であったことから、一躍、村の知名度が上がりました。

同じく昨年11月に行われた第7回の同コンテストにおいても、ハードタイプ部門で最高賞の「農林水産省生産局長賞」を受賞し、改めて「手作りナチュラルチーズ鶴居」の品質の高さが証明されました。

これら多くの地域資源を活かしながら、鶴居村は「日本で最も美しい村」づくりを目指し、飛躍を続けています。

UJI・定住に関する施策

- ・移住体験(ちよっと暮らし、お試し暮らし体験)住宅整備
 - ・分譲地販売事業(下幌呂夢の杜団地、中幌呂分譲地)
 - ・合併処理浄化槽設置整備事業
 - ・新規就農者対策事業
 - ・起業化支援事業
 - ・農業体験及びファームスティ事業(鶴居村めぐりねっとわーく)
 - ・乳幼児、児童生徒医療費助成事業(中学生まで医療費無料)
 - ・出産祝金等支給事業
 - ・老人医療費助成事業
 - ・温泉無料入浴券配布事業
 - ・無料患者送迎バス運行事業
 - ・妊婦健康診査費助成事業
 - ・特定不妊治療費助成事業
 - ・紙おむつ処理用袋支給事業
 - ・高齢者給食宅配事業
 - ・高校通学バス運行
- など、村独自の多くの施策を実施し、住民生活の向上に取り組んでいます。

UJIターン お問い合わせ窓口

担当部局	振興課企画係
住 所	〒085-1203 北海道阿寒郡鶴居村鶴居西1丁目1番地
電話番号	0154-64-2112
FAX番号	0154-64-2577
ホームページ	http://www.vill.tsurui.lg.jp/
問い合わせメール	tancho@vill.tsurui.lg.jp